

地域医療連携室だより



～ 新年のご挨拶 ～

皆様、明けましておめでとうございます。

今冬は、昨年末から厳しい寒さが続いておりますが、お元気に過ごされていることと存じます。旧年中は地域連携を通して大変お世話になりました。ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は当センターにとりまして、大きな体制変更の一年でした。地域の住民と医療機関の方々に役立つように、診療体制を整備致しました。

その1は、病院名称の変更です。「大阪はびきの医療センター」となり、呼吸器とアレルギー以外の診療機能が利用しやすくなったのではないのでしょうか。

その2は、救急診療体制の整備です。

それまでの9～17時の救急受け入れに加えて、

火曜と木曜日に呼吸器内科限定で24時間救急を始めました。お困りの時にはご利用いただけましたでしょうか。

その3は、耳鼻咽喉科の開設です。2名の専門医が、入院と手術を行っていますが、たくさんの患者さんに利用していただいております。

今後も当センターは、呼吸器とアレルギー疾患の専門医療の提供は当然のことながら、婦人科疾患、乳がん、胃がんや大腸癌、白内障、耳鼻咽喉科疾患の手術に加え、カテーテルによる吐下血治療や不整脈・狭心症の治療にも尚一層力を入れて、府民と地域医療機関にやさしい病院になっていきます。この4月の診療報酬改定は、医科も介護も全般的に厳しい結果になるとのことですが、連携を深め共に支えあう1年になりますように。お互いに健康に気をつけて、健やかに仕事をしていきましょう。



院長 太田三徳

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、地域の医療機関の皆様方には、大変お世話になり心より感謝申し上げます。

当センターは、呼吸器・アレルギー疾患の専門医療機関ですが、地域の皆様から頼りにされる病院でなければならないと考えています。

かつての当センターは、とすれば「敷居の高い病院」と言われていたと聞いております。「府立の病院は、お上の病院」「専門病院は、偉い病院」と、うぬぼれていたのかもしれませんが。

しかし、今やそんな勘違いは許されません。勿論、府立の病院は、民間の医療機関とは果たすべき使命・役割は異なりますが、適切な役割分担のもと、しっかり協力し合っていかなければなりません。

そのため、当センターでは、地域の先生方から頼りにされる病院となるよう、

患者紹介には「原則、断らない」「レスポンスを早くする」を合言葉に対応しております。また、地域の先



生方との距離を少しでも近いものにしたいと考えております。その手始めとして、11月には、病診連携勉強会「はびきのアカデミー」を開催し、多くの開業医の先生にご出席いただきました。今後、年に2回程度開催していく予定で、地域の先生方とフェーストゥフェースの関係を築いていけたらと期待しております。

上のような努力を重ねてはいるつもりですが、まだまだ至らない点は多々あるかと存じます。お気づきの点がございましたら、何なりとご指摘を賜りますようお願い申し上げます。新病院の建替えも検討を進めております。南河内地域の拠点病院として、地域の医療機関の皆様方から頼りにされるよう、引き続き努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

事務局長 美濃 喜介

～ 第1回 はびきのアカデミー開催のご報告 ～

11月30日（木）に天王寺都ホテルにて第1回はびきのアカデミーを開催し、68名の方にご参加いただきました。引き続き行われた意見交換会では、連携医療機関の先生方、メディカルスタッフ、事務スタッフの方々と短い時間ではありましたが親睦を深めることができました。ご多忙の中、ご出席頂いた皆様方に厚く御礼申し上げます。今後も幅広い分野で地域の先生方との連携を深めてまいりたいと思います。次回は5月を予定しております、ご参加お待ちしております。

◆研修・研究会のご案内

大阪はびきの医療センター 府民公開講座 羽曳野からだ塾



1) 第17回 羽曳野からだ塾

日時：2018年1月20日（土曜日）14時～16時

会場：大阪はびきの医療センター 第一会議室

テーマ「産科にまつわる最近のトピックスについて」

1. 最近の諸問題について 産婦人科主任部長 赤田 忍 医師
2. 気をつけないといけない感染症、安全な無痛分娩、産後うつについて
産婦人科副部長 安川 久吉 医師
3. 産後のメンタルヘルスケア ～助産師にできること～



地域医療連携室 TEL (072)957-2121 (代) FAX (072)957-8051 (直)